

N. I. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

もともと留学をしたいと思っており、同女の留学プログラムを見ていました。1 年間留学しても 4 年間で卒業できるという点に惹かれて、協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

最初は TOEFL で応募しようとしていたので、同女の資格取得支援講座を利用して勉強していました。また、社会システム学科の CASE プログラムに参加していたので、毎日英語に触れる機会があり、エッセイの書き方もしっかりと学ぶことができました。スピーキングテストの相手が人のほうがいいと思い、途中から IELTS を受験することにしました。勉強方法はそれまでと変わらずにやっていましたが、TOEFL と比べると IELTS のほうが自分に合っており、結果的に目標スコアを獲得できたので、思い切って切り替えてよかったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザ申請から予防接種までやらなければいけないことがたくさんありました。ビザ申請はネットにやり方が乗っているので全て自分でできました。面接は英語で簡単な質問を 3 つほどされただけでした。予防接種は、1 つ目の病院ではほぼ終了していたはずなのに、海外渡航者専門の病院へ行ったらいくつかやり直すことになりました。やはり、専門病院のほうが詳しく、アドバイスもしてもらえるので最初から専門病院に行けばよかったと後悔しました。航空券は、同時期から MBU へ留学する 2 人と一緒に自分たちで予約しました。私は、ひとり暮らしをしていたので、アパートを引き払う準備も進めていました。留学決定から出発までの時期はとても忙しかったです。

④ 現地到着後

アメリカ入国の時に I-20 が必要と知らず、ワシントン・ダレス空港に到着後、持っていないことに気づきました。空港で別の部屋へ案内され、とても重い空気の中、日本人職員の方にサポートをしていただきながらいくつか質問に答えた後、一時入国許可という形でなんとか入国できました。一緒にいた友人 2 人を長い間待たせてしまった上に、シャーロットビル空港までの乗り換え便の時間が迫っていたので搭乗口までダッシュさせる羽目になってしまいました…シャーロットビル空港には、MBU のアドバイザーの先生が 2 名迎えに来てくださいました。ここで同時期から MBU へ入る留学生と初めて顔を合わせました。これからアメリカに滞在するために期限内に必要な書類を領事館まで送らなければなりませんでした。アドバイザーの先生に相談したところ、「前にも I-20 忘れた留学生いたから大丈夫よ。」

と言ってサポートしてくださいました。私は、周りの人に助けてもらいなんとか新しい I-20 をゲットできましたが、留学最初のイベントがこれだととても参るので、I-20 はパスポートとセットで確認することをおすすめします。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

2 セメスターとも MBU で授業を受けたので、語学学校へは通っていません。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

勉強する場所はたくさんあります。図書館は夜遅くまで空いていたり、スペンサーセンターの 2 階のパソコンがある部屋は 24 時間空いています。私は、一時期図書館で勉強していましたが、結局寮のキッチンに落ち着きました。だいたいいつでも誰かしらキッチンに居るので、励まし合いつつ勉強に取り組むことができました。テスト期間や提出物が重なって忙しい時期は、荷物をキッチンに置いたまま寝に部屋に行き、またキッチンに戻るという生活をしていました。Wi-Fi がキャンパス内に飛んでいるので、基本的にどこに居ても勉強やレポートができる点が良かったです。

◆ 履修科目

あらかじめどんな授業を取るか日本で検討をつけてから、オリエンテーション期間にアドバイザーの先生と相談しながら決定しました。

秋学期

・ INT130 American Culture

留学生向けの授業です。フィールドトリップも 4 回ほどあり、いろいろなアメリカを学べます。勉強というより、アメリカ文化を知り、アメリカの生活に慣れるためのものでリラックスした雰囲気での授業でした。エッセイと発表が数回ありました。

・ ENG103 English as Second Language

これも留学生向けの授業です。主にいろいろな種類のエッセイの書き方や新しい単語を学びました。エッセイの添削をしてくれるライティングセンターへ行った回数も成績へ反映されました。

・ COMM100 Public Speaking

スピーチの仕方を学びます。7～8 分程のスピーチが 3 回ありました。スクリプトとパワポの両方が必要なので発表前は準備に時間が必要でした。テストも数回ありました。

・ PHIL179 Horseback Riding

乗馬をしにキャンパス外の Grey Gables Farm へ行きます。なかなか体験できないのでい

い思い出になりました。

・ **ANTH120 Cultural Anthropology**

毎授業のリーディング以外にクイズシートの提出、中間と期末テスト、エッセイ、グループワークと課題が多かったです。

春学期

・ **ART124 Digital Photo & Printing**

アートの授業を 1 つ取って見たかったので取りました。いろいろな作品を作れて楽しかったです。

・ **AS246 Modern Japan**

日本の歴史から文化まで幅広く学びました。日本人としてそうじゃないと感じたり、アメリカから見たらこうなのかなと分かったり、考えさせられることが多い授業でした。

・ **POLS215 Politics of Developing Nations**

1 年を通して一番大変でした。課題も多く、最後のリサーチペーパーは 12 ページにもなりました。内容は発展途上国で興味深く学ぶことができました。

・ **SOC112 Social Problems**

アメリカの社会問題を幅広く学びます。どんな考えも認めてくれる先生でした。

・ **JPNS102 Beginning of Japanese**

TA(ティーチングアシスタント)として出席させてもらいました。違った形で日本語に触れることができ面白かったです。

・ **JPNS202 Intermediate Japanese**

JPNS102 の 1 歩進んだ中級クラスです。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

学期の初めにクラブラッシュというイベントがあり、いろいろなクラブのブースを自由に回って、その場でサインアップできます。私は、同女の先輩方も所属していた COSMOS に入っていました。ハロウィンやセントパトリックデーなどいろいろなイベント時に集まってパーティーをしました。また、インターナショナルフェスティバルを開き、日本の文化を紹介したり、他国の文化を学んだり国際交流のいい機会になりました。他には、アニメクラブとハイキングクラブに所属していましたが、ほとんど参加していません。ハイキングクラブは一度集会があっただけで、そもそも活動がありませんでした。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

Memorial Residence Hall という寮に住んでいました。他の留学生もほとんど同じ寮に住んでいたのも、一緒に過ごす時間も多かったです。寮は、授業をする建物やダイニングホール、図書館など、どの建物へも徒歩すぐでした。小雨なら傘なしで行けちゃいます！ルーム

メイトは1つ上のアメリカ人でした。専攻も似ていて、同じ授業も取っていたので、分からないことを質問したり、課題の進捗具合をお互いにチェックし合ったりしていました。干渉しすぎない部分もあって、とても居心地がいいルームメイトでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

ほとんどの長期休暇は寮も閉まり、せっかくの機会なのでいろいろな所へ行きました。留学して最初の長期休暇の **Fall Break** は、留学生 4 人でカナダへ行きました。ナイアガラの滝をアメリカ側から見ようと橋を渡りいざ入国審査の時に、誰も **I-20** を持っていないことに気づきました。以前の **I-20** はパスポートと同じくらい大事だという教訓を生かせませんでした…結局、入国拒否の書面をもらってカナダへ戻りました。ただ橋を行ったり来たりしただけという結果になりましたが、それもまた思い出です。**Thanksgiving Break** はフレンドシップファミリーの家で過ごしました。フレンドシップファミリーとは **MBU** のプログラムで、留学生と現地の家庭を結びつけてくれるものです。寮生活では体験できないアメリカの家庭を経験することができました。一番長い1か月の間の **Winter Break** は、前半はアメリカ人の友人の家にお世話になりました。メキシコとの国境近くに家があり、メキシコスタイルの食事やクリスマスを経験させてもらいました。アメリカ国内でも信仰する宗教やバックグラウンドによって文化も雰囲気も大きく異なることを実感しました。後半は、日本から友人が来てくれたので一緒に西海岸を観光しました。その後、サンフランシスコに滞在していた留学生と合流してバージニアに戻りました。最後の **Spring Break** はニューヨークとワシントン D.C.へ行きました。様々な分野の貴重なものが見学できる博物館がたくさんあり、街の雰囲気も素敵なワシントン D.C.がとても良かったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

11 月にはボストンキャリアフォーラムに行きました。前もって企業に応募したり、企業研究をしてしっかり準備をしていけばチャンスはあるかもしれません。3 月 1 日解禁に合わせて、いくつか気になる企業にエントリーし、ES や SPI などいくつか提出したり受験しました。しかし、ファイナルテストの期間と被っていたので、両立することが難しく、途中からファイナルに集中することに切り替えました。留学前も最中もなにかと忙しく、後回しにしていたのですが、隙間時間にでもコツコツと準備できていたらよかったと思いました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

素敵な人たちにたくさん出会えたことです。特に、留学生同士は本当に仲が良く、いつもみんなでお励まし合ってきました。旅行など特別なイベントがなくても、一緒に生活できることが楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

勉強です。特に春学期は秋学期と比べて、留学生用の授業がない分苦労しました。1 科目週 1 回授業の日本と違い、1 科目週に 2～3 回あるので課題を間に合わせるのも一苦労でした。もう 1 つは、飛行機です。国内を移動する手段が車かアムトラックか飛行機が主なので、ほとんど飛行機を使っていました。しかし、予定通りに着けたことはほぼありませんでした。ボストンへ行った時に、昼の 12 時到着予定が、夜 12 時に着いた時はさすがにいやになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

留学して一番最初に驚いたことは、食べ物に対する考え方の違いでした。食べ物を残すというところに罪悪感が感じられないところは一番違うと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

キャンパスの周りに娯楽が少ない分、大学や学生団体が積極的にいろいろなイベントを開催してくれます。勉強の息抜きにもなって、何より楽しいイベントばかりです。また、アドバイザーの先生方が本当に親身になってサポートしてくれます。勉強面だけでなく、生活面で困ったことや聞きたいことがあったら何でも相談できます。悪い点は、週末はハウスキーパーの人が寮に来ないので共用のシャワールームとトイレの汚れが気になりました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。あとは、ドレッシングを持っていくのをおすすめします。ダイニングホールにも常に 6 種類以上ドレッシングがあるのですが、全部クリーム系のドロっと重いものしかなかったので、1 本だけ持っていた和風ドレッシングを大切に使っていました。日本を感じられるレターセットやお土産などもできるだけ持って行くとちょっとお礼したいときなどに使えます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

Spring Break 中にワシントン D.C.で TOEIC を受験しました。アメリカではまだ新形式が取り入れられていなかったのでラッキーでした。特にリスニングパートが以前よりできるようになっており、最後の方も聞き取るのに疲れてくることもなくなっていました。留学中は本当にそれぞれのバックグラウンドや考え方を持った人たちに出会います。私が留学した年はエレクトロニック・イヤーだったので、多民族国家を感じる機会が多かったと思います。留学を通して、先入観にとらわれずに人と接することや、それぞれが自分の中で常識を持っていて、でもそれが誰にでも通じるわけではないことを実感しました。人と接する時は、相手を受け入れることができるように心を常に広げていたいと思うようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は、留学に行ってよかったです。困ったときは誰かが助けてくれます！なので、心配せずに行っていきたいと思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今は就職活動をしています。留学で得た語学力でも考え方でもなんでもいいので、少しでも生かした仕事ができたらと思っています。

Ⅴ. 写真



私が MBU を去る前日です。インドからの留学生 2 人が撮影に参加できなかったのが残念でした。MBU のキャンパスはとても素敵です。

2016 年度（秋スタート・1 年）
Mary Baldwin University



Signature Ball というパーティーでルームメイトと。



Thanksgiving Break にフレンドシップファミリーの末っ子と友人家族とシェナンドー国立公園へドライブに行きました。

A. O. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

中学生の頃は最大の苦手だった英語ですが、高校 3 年生の受験勉強の時に英語力が伸びていくことの嬉しさと英語を勉強する楽しさから、大学では英語を使って勉強したいという思いを抱いていました。その頃から大学での留学に興味を持ち始め、大学入学時には協定留学制度を利用して半年以上の海外留学を経験することが学生生活の中での 1 つの目標でした。英語を使えばより多くの人とコミュニケーションが取れること、そして生まれ育った日本を離れ新しい環境に身を置くことの新鮮さに惹かれていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学を目指し始めてから協定留学出願に必要なスコアを取得するまで、なかなか思うように目標点数に達せず、たくさんの時間と費用を費やしました。当初は、リスニングとリーディングだけの TOEFL-ITP に力を入れましたが、その後 IELTS の方が選考に有利だということに気づき、スピーキング、ライティングの練習をしました。スピーキングはカメラに向かってひたすら英語を喋る練習をしたり、ライティングでは自分の知っている単語を並べながら文章を書いたり、基本的には自力で勉強していましたが、本学の IELTS セミナーなども活用していました。テストの問題傾向を掴むこと、過去問題を解いてテストに慣れることが大切だと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後に留学先大学が変更になったりと一時期はバタバタしましたが、ビザの申請や航空券手配、予防接種の準備は時間をみながら進めていきました。ビザの手続きは大使館のホームページを参考にすること、航空券は旅行会社や航空会社など、いくつかの航空プランを比較することをおすすめします。それと同時に、海外で使うキャッシュカードやクレジットカードの手続きも全て一から始めました。ギリギリになって焦らないように、準備はできるだけ早め早めを心がけて取り組んでおくと思います。語学学習については、私は海外の方が利用するゲストハウスでアルバイトをしていたので、そこで英語を使うことに慣れる練習をしていました。日本でも少しずつ英語を使う環境に身を置くことで、留学先の生活の中でストレスを感じにくくなると思います。

④ 現地到着後

学校から 45 分ほど離れたところにある Charlottesville 空港にオリエンテーションの前日に着き、他の留学生と留学先大学の先生と合流して車で移動しました。Mary Baldwin 大学では、留学生 1 人ひとりにアンバサダーと呼ばれる現地の学生がつき、到着直後から寮やダ

イニングホールの使い方、これからの予定など優しく教えてください。授業が始まる前に 1 週間のオリエンテーションがあり、キャンパス内外の案内やヘルスケアセンターの使い方、安全に過ごすための説明などもありました。また現地の新入生と入学のセレモニーやイベントにも参加し、時差ボケに悩む時間もないほど忙しく充実した時間を過ごしました。

⑤ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

私が留学していた Mary Baldwin 大学はバージニア州の小さな町にある女子大学です。大学の近くにはカフェや古着屋さんが並び、私はそのこじんまりとした雰囲気大好きでした。大学は 2017 年に創立 175 年を迎え、それに伴い大学内のカフェやイベントなどに使われるホールなど、いくつかの建物がリニューアルしたそうです。キャンパスからの景色は本当に綺麗で、よく寮の前から見える綺麗な夕焼けの写真を撮っていました。キャンパス内では Wi-Fi が使えますが、時々接続が悪くなることもあったので不便に感じることもありました。平日は夜中まで開いている図書館や、24 時間使えるコンピューター室などもあります。また、無料で使えるジムやトラックで運動することもありました。

◆ 履修科目

秋学期

秋学期の授業は留学生全員が受ける授業 2～3 つに加えて、各自 1～3 つほど好きな授業を選んで履修していました。秋、春学期ともアドバイザーの先生と簡単なミーティングをして履修科目を決定しました。

・ American Culture

留学生必修のクラス。アメリカの歴史や女性の権利など、幅広くアメリカのことについて学びました。フィールドトリップに行く機会もあり、楽しみながら履修できるクラスだと思います。

・ English as a Second Language

エッセイの書き方などを学ぶ留学生のためのクラスで、語学学校に行っていなかった私にとってはためになる授業でした。毎週単語テストやエッセイを書く課題があります。

・ Public Speaking

留学生は履修することをおすすめされますが履修自由です。現地の生徒と一緒に受ける授業で、プレゼンの仕方について学び、英語を人前で話す良い機会になりました。

・ Faith, Life, and Service

宗教学の授業で、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教から無信教や他宗教など幅広く学びました。週 3 回の授業のうち、週に 1 回グループワークがありました。専門用語が多く、毎回の授業についていくのに必死でした。

• **Beginning Ballet**

近くのバレエスクールの初心者クラスで週に 1 回レッスンを受けました。1 セメスターで 100 ドルかかりますが、バレエ初心者の人でも無理なく基礎的なことから学べます。

• **Teaching Assistant of Beginning Japanese**

TA として日本語クラスに週 2 回参加しました。活動内容は宿題やテストの丸付けなど基本的には先生のお手伝いでした。また、日本文化について紹介するプレゼンをしました。

春学期

春学期は留学生用の授業がなくなり、好きな授業をだいたい 5~7 つほど履修することができます。

• **Introduction to Shakespeare**

1 学期を通して、6 つのシェイクスピアの物語を 1 人ずつパートを決めて授業内で読み進めます。学期内で 3 つのエッセイと、実際に演劇を 3 作品見に行つてそれぞれの感想文の提出が求められます。

• **Interviewing in Human Service Professions**

社会福祉士として行うカウンセリングの仕方を実践的なインタビューを通して学びました。生徒同士でペアを組み、授業内でそれぞれの状況に沿ったインタビューを学期内で 1 人 4 回ずつ発表します。

• **Modern Japan**

日本の歴史や文化を学ぶクラスで、母国を外の視点から見れるのでとても面白かったです。1 人 1 回ずつプレゼンテーションと 3 つのレポート、そして期末テストがあります。

• **Social Problems**

アメリカが抱える社会問題について学ぶこのクラスは、主に先生と生徒の意見交換のような形で授業が進んでいきます。毎週の授業の中で感じたことを書く **attendance paper** と自分が選んだ社会問題のトピックについて中間、期末合わせて 6 つほどのレポートを書きます。

• **Modern Dance**

モダンダンスの基本的なことを学びながら、学期末に行われるソロ、グループパフォーマンスに向けて練習します。また、学期内にダンスの舞台を見に行つて、それについて書くレポートがあります。学期末にモダンダンスに関するテストもありました。

• **Beginning/ Intermediate Ballet**

初級、中級クラスが一緒になったバレエのクラス。秋学期よりも少しレベルの上がつたクラスでしたが、学期末に簡単な実技テストがあるだけで、レポートなどはありません。息抜きになってお気に入りのクラスでした。

・ **Teaching Assistant of Beginning Japanese**

秋学期に続けて TA をしました。母国語を教えることの難しさを感じると同時に、日本語で挨拶する生徒が少しずつ増えてきたことに嬉しく感じました。

メイターム

メイタームは、毎日 3 時間あるクラスなのでだいたい 1~2 つ履修します。

・ **Permeable Borders/Reflective Self in Community**

Mary Baldwin 大学の魅力的な部分やこれからの課題点などを話し合い、大きな布にそれらを描く 1 つの作品制作に取り組みました。数回の講義授業の後、実際にペインティングを始め、毎授業後に皆の前で感想を発表します。最終日にはお披露目会をし、最終レポートの提出がありました。

⑥ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

もともと踊ることが好きだったのと学校での交友関係を広げたいと思い、秋学期は学校のダンスクラブに所属していました。学内のイベントでのステージに向け、夜中まで練習したりとハードな時もありましたが、当日はたくさんの人が見に来てくれて良い思い出になりました。また、留学生のための COSMOS というクラブにも所属し、みんなでアメリカの祝日をお祝いしたり、ゲームをしたりと様々なイベントを楽しみました。学校を通して、いくつかのボランティア活動にも挑戦しました。ダウンタウンのイベントのお手伝いや、近くのペットショップでのイベントで子どもたちにフェイスペインティングをするなど、地域の人と関わる良い機会になりました。

⑦ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

キャンパス内の寮に 9 か月間住んでいました。基本は現地の生徒か留学生との 2 人部屋で、事前に簡単なアンケートに答えそれを基にマッチングしてくれるのですが、私は最初の 2 週間ほど 1 人で住んでいました。どうしてもルームメイトが欲しいということをアドバイザーの先生に伝えると、すぐに手配してくれて現地の学生がルームメイトになりました。授業や課題など分からないことがあればいつもアドバイスをくれて、彼女にはたくさん支えられたと思います。また、1 歩廊下に出ると現地の友達や留学生と会う環境にいました。体調を崩した時や困ったことがあった時、助け合える友達が常にいたことはとても心強く、またそのような関係を築けたことは本当に良かったと思います。食事は毎日 3 食(土日は 2 食)、キャンパス内にあるダイニングホールかカフェで食べることができます。また学校の近くのレストランに行ったり、寮にあるキッチンで自炊したりしていたので、個人的に食事で困ったことはありませんでした。

⑧ **長期休暇の過ごし方**

秋休みには留学生 4 人でカナダに 5 日間旅行に行き、Thanksgiving Break には学校から紹

介してもらったフレンドシップファミリーと呼ばれる家族と過ごしました。アメリカの一大行事であるサンクスギビングは日本でいうお正月のような雰囲気、ぜひ体験してみたいことをおすすめします。1 か月間の冬休みは寮を出ないといけなかったのですがワシントン D.C.、ニューヨーク、テキサス、そしてお隣の国メキシコに旅行に行きました。州ごとに雰囲気がガラッと変わるので、ぜひ色んなところに行ってその違いを感じて欲しいと思います。10 日ほどの春休みはインドの友達の親戚のご家族にお世話になりました。毎回旅行の中でトラブルがありましたが、ちょっとしたことで動揺せず自分たちで解決する力を身につけたと思います。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

3 年の 8 月からの留学だったので、常に自分の将来について頭に入れながら過ごしましたが、あくまでも留学生生活を優先させる形で就職活動に取り組みました。具体的には、ボストンキャリアフォーラムという就活イベントに参加したり、インターネットや日本から送ってもらった新聞記事などから少しずつ情報を仕入れたりしていました。留学先でエントリーシートや履歴書を書いたり、Web 面接を受ける機会もありましたが、基本的には時間に余裕がある時だけ就職活動に集中しました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

小さな大学に留学しましたが、国籍問わず多くの人に出会いお互いの考えを共有しました。また、相手のバックグラウンドや大切にしているもの、好きなことを知ることによってその人の知らなかった一面に気づき、その人のことを知っていくことがとても楽しかったです。また、それまで自分が抱いていた「当たり前」に気づけたことが留学での一番の収穫でした。英語に訳すことのできない「お疲れ様」や「いただきます」、「いってらっしゃい」などの言葉には、相手への思いやりや感謝の気持ちが込められていて、今まで考えもしなかったことに目を向けるきっかけとなりました。そしてアメリカにいながらインドの宗教や韓国の軍役システムなど様々な国の文化を知り、触れる機会があり、人種の多様性を肌で感じると同時に、お互いのことを知っていく 1 日 1 日がとても楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学生活の中で一番大変だと感じたことは、時間のマネジメントです。たくさんのペーパーやプレゼンの練習など、毎週課題に追われるような生活でした。私は短時間で課題を仕上げるより少しずつ取り組むタイプだったので、毎日の課題のための時間の確保が大変でした。また睡眠時間を極端に減らすなど、無理をする生活を続けるとすぐに体調に現れてしまうので、体調管理にも気をつけていました。勉強以外にも友達やフレンドシップファミリーと

の時間も大切にしていたので、限られた時間の中でどう動くかが留学中の 1 つの課題でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

授業中に見る生徒の授業態度です。少人数のクラスがほとんどだったので積極的に発言をする生徒が多いことはもちろん、朝ごはんを一番前の席で食べていたり、カジュアルすぎる態度に初めはびっくりしました。また、知らない人にも「そのスカートいいね」と話しかけることや、演説や映画を見ている時の大きすぎるリアクションに最初は驚きましたが、それと同時に自分の気持ちを周りに伝えることが上手な人が多いなと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、留学生に対する制度がしっかりしていることです。オリエンテーションや、履修の相談など、きめ細かいサポートが受けられることが一番の魅力だと思います。フレンドシップファミリーと呼ばれる現地のご家族も留学生 1 人 1 人に紹介してくれ、アメリカの文化を体験するきっかけを作ってくださいます。しかし、小さい大学なのでコミュニティがどうしても限られてしまうことは事実です。なので、地域のボランティア活動に参加したりと工夫して外とのつながりを持つことをおすすめします。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

自分のパソコン、使い慣れた薬、洗濯ネット、日本からのお土産、そして自炊用にボトルに入ったダシは持って行って良かったと思います。個人的に、服や化粧品はアメリカで買いたくなるので、日本からはそこまで持って行く必要はないと思いました。また、自分の今までの生い立ちや趣味などを書いた小さなアルバムを留学前に作り、現地で自己紹介するときに役立ちました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は 9 か月前と比べて確実に伸びたと思います。今でも完璧とは言えませんが、使う英語の範囲が格段に広がったと思います。留学先では英語を使う環境にいたことに加えて、日頃から英語での言い回しを頭で考える工夫もしました。TOEIC の点数だと留学開始から半年で 300 点弱アップしました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

自分が生まれ育った国以外に目を向けることはとても大事だと思います。環境の変化に戸惑ったり、自分の伝えたいことがうまく言えず悔しさを感じることもあるかもしれませんが、そんな経験を乗り越えることで得られるものは必ずあると思います。今しかできないことに思いっきりチャレンジして欲しいと思います。TRY EVERYTHING!

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

小さな目標としては、留学を通して培った英語力と考える力を生かして英語のプレゼンテーションコンテストに挑戦したいと考えています。卒業後は、何らかの形で日本の海外発展を支える仕事、そして海外に出ることの大切さを伝えたいと思っています。

V. 写真



春休み中に本当に素敵な家族に出会い、初めましてだった私もあたたかく迎えていただきました。アメリカにいなながらも留学生を含め様々な国からの人に出会い、人種の多様性を感じました。

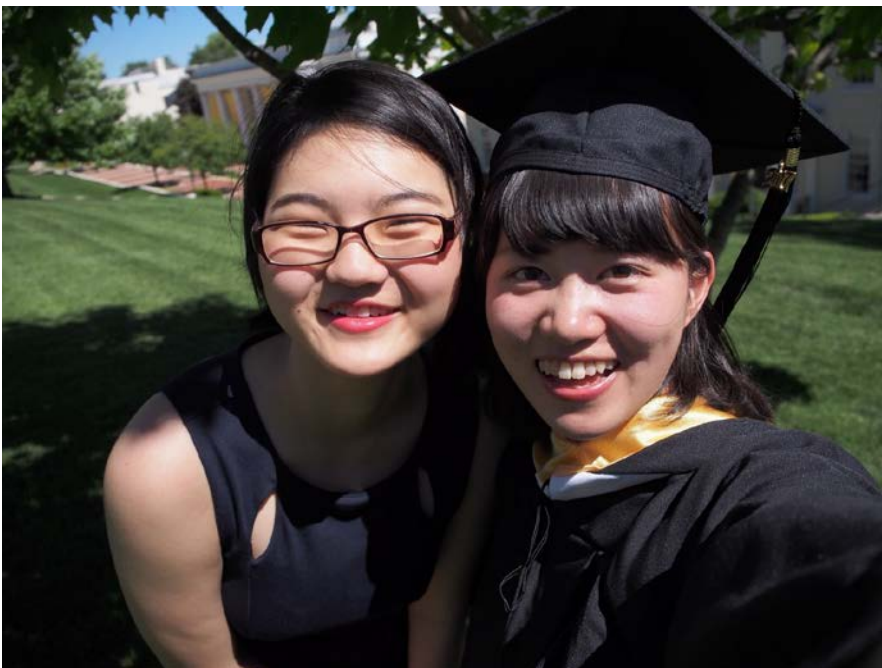


留学生のみんなと先生がダンスの発表会を見に来てくれました。留学生は本当に仲が良く、みんなのおかげで9か月間一度もホームシックになることなく、充実した日々を過ごせました。

2016 年度（秋スタート・1 年）
Mary Baldwin University



いつも私の話を優しく聞いてくれたお友達。困ったことがあると、いつも相談に乗ってもらっていました。



映画鑑賞、勉強、ゲーム、ズンバ、ランチなどたくさんの思い出を共有したルームメイト。年下だけど、お姉ちゃんのような存在でした。

S. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校の時から夢で、大学に入学したら絶対に留学しようと思っていたからです。この協定留学に行く前、長期休みに 2 週間や 1 か月ほどの短期留学にも行きましたが、より長期で日本と文化の違うところで生活したいという思いと、語学を勉強するだけでなく専門的な分野も現地の学生と一緒に勉強したいという思いが募りました。英文学科なので、アメリカについて勉強することも多く多民族国家の実態にも興味があったのでアメリカで勉強することを決めました。ですが、自分が何について本当に興味があって勉強したいのか、あまり明白ではなかったので違う環境において新しい刺激や影響の中で探したいという思いもありました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習法

IELTS で出願しようと考えていたので、大学で行われていた海外留学準備セミナーに参加して IELTS のノウハウを学びました。計 3 回受験しましたが、思うように伸びず、毎日コツコツともしっかり勉強すればより点数を上げられたのではないかなと少し後悔しています。IELTS の教科書として評判の良いものをネットで調べて買った教材は、

“Target Band 7” です。これをしっかり読めば、点数を上げるコツなどが書かれているので自分で勉強ができると思います。実践問題用の教材も買ったのですが、全部やりきることはできませんでした。

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザの申請手続きは、思っていたより大変でした。入力する項目も多く、英語で理解しなければならぬ部分も多くて時間がかかりました。ですが、調べれば解説してくれているサイトも多くあったので自分でできました。様々な手続きを通して、留学するという実感が徐々に湧いていきました。また、英語の授業に慣れるためにネイティブの先生の授業を多く取りました。

④ 現地到着後

同女から Mary Baldwin 大学に行く 3 人で一緒に飛行機に乗り、最寄りの Charlottesville 空港に到着しました。空港で、他の留学生たちとも対面し、大学のアドバイザーの方 2 人が 40 分ほど離れた大学まで送迎してくださいました。大学に着いた日から、授業が始まるまでの 1 週間ぐらい、オリエンテーションがありました。入学したての 1 年生と私たちも混じり、様々なイベントに参加しました。アドバイザーの方たちにとっても親切に手続きの手助けをしていただいたので、授業登録も戸惑うことなくできました。

⑤ 正規科目履修期間

始めのセメスターは、英語を第二言語とする学生のためにレポートの書き方を学ぶ授業や発表の仕方を学ぶ授業、アメリカの文化、歴史を学ぶ授業をとりました。一度今までに学んだ内容も多かったので、余裕を持ってできました。ですが、**Public Speaking** の授業は 1 人 7 分間の発表が 3 回あり、毎回リサーチし決められた形のアウトラインをしっかりと用意しなければいけませんでした。本番は、とても緊張しましたが人前で話すいい練習になったと思います。アメリカの文化、歴史を学ぶ授業では、3 回ほどフィールドワークを行っていただきました。アメリカの 3 代目大統領であるトーマス・ジェファークソンが設計し生活した家、『モンティチェロ』や、歴史博物館の見学にも行きました。Mary Baldwin 大学の周りも歴史が深く、知ればしるほど楽しくなりました。自分で選択する授業では、**Fundamentals of Art and Design** をとりました。課題作品の数が多く徹夜で友達と仕上げることもありましたが、いい思い出です。白黒の世界を既存のアイデアにとらわれず創造するという、普段は触れないような分野を学び貴重な体験になりました。また、芸術の基礎なので基本となる芸術専門の考え方も学べ、おもしろかったです。

◆ 履修科目

・ Modern Japan

日本の歴史や文化を学ぶ授業です。日本の歴史が好きだったのと、日本の歴史や文化をどういう風にアメリカの学生に教えるのか、また学生がどんな反応をするのかに、興味がありとりました。受講者数が多く、学生たちも自由に発言し賑やかな授業でした。課題は 3 回のリサーチペーパーと、1 回ペアでの発表がありました。戦時期の内容は、教える内容や学生の反応に対して少し違和感を覚えることもありましたが、それも自分の歴史に対する考えを柔軟にする良いきっかけにもなりました。また、歴史を学ぶ時、今までは暗記しかしたことがなかったのでペーパーを書くたびに、自国の理解も深めることができました。

・ Digital Photography

以前から写真に興味があり、本当は、前期に **Photography** の授業をとりたいかったのですが時間が合わずとれなかったので秋学期にとりました。専用のスタジオがあり、液体に漬けて写真を現像したり、**Photo Shop** や **Light Room** を使って加工したり、学びたかったことに触れられて良かったです。3 時間と授業時間は長いですが、課題はあまりないので息抜きにもなり、とても楽しかったです。

・ International Relations

国際関係論の理論をもとに、世界の紛争や国家間の関係を学ぶ授業です。前期にアメリカの選挙があり、政治学にとっても興味が湧きこの授業をとりました。この分野の勉強はした

ことがなかったのですが、専門用語などが多く難しかったですがアメリカの大学で学生が多く発言し積極的な雰囲気の中で授業の中に混じり学べたことは、とても良い経験になったと思います。Mid Term と Final にペーパーとテストが 1 回ずつありました。毎回予習で教科書を 1 単位ごと読み、大学が提供するウェブサイトコメントするという宿題がありました。他の学生も自分のコメントを見られるので気を引き締めて書く練習にもなりました。この授業では、途中から TA を頼みました。テスト前には 6 時間も一緒に勉強してくれたりペーパーのアドバイスをくれたり、とてもお世話になりました。現在実際に起きていることが、授業内容に反映されたりするのでとても面白かったです。

・ Politics of Developing Nations

開発途上国について、経済成長が難しい原因や現状などを学びました。留学中にとった授業の中で一番興味深かった授業ですが、一番課題がしんどかったです。ペーパーが合わせて 3 つと、発表形式のディスカッションがありました。ペーパーは、1 セメスターを通して、自分が決めた開発途上国について世界銀行などが提供する実際のデータを使いながらリサーチをするという課題でした。私は、一度行ったことがあるということでカンボジアについて調べたのですが、歴史が複雑だったり、貧しい国カンボジアというイメージが私の固定観念だと気づいたり、新しい発見は面白かったです。様々な要因がもたらす開発途上国の現状などを知り知識を得た今、もう一度カンボジアや周辺の国にも行ってみたいくなりました。ディスカッションの発表は、とても緊張しました。普段の授業でもディスカッションはよくあったのですが、あまり発言できたことがなかったので学生の前でするのは恐怖でしかなかったです。本番は、話の流れについていくのに必死でやはりあまり発言ができず、すごく悔しい思いをしました。もっと頑張らなければという、自分に喝を入れる良いきっかけにもなりました。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

COSMOS という国際クラブのような部活に所属していました。私たちは、イベントがあると参加したり International Festival では日本の文化を紹介したりしました。多くのアメリカの学生が来てくれて、興味を持ってくれるのが嬉しかったです。また、秋学期は Yarn Club にも所属していました。編み物は初心者でしたが、部長がとても優しくて楽しむことができました。手先に集中して他のことを何も考えない時間が心地良かったです。

⑦ 現地での住まい(語学研修期間、正規科目履修期間)について

留学生みんなと同じ寮、同じフロアに住んでいました。ルームメイトと 2 人部屋が基本でしたが、秋学期はおらず春学期にアメリカの学生と一緒に過ごすことができました。古い建物で小さな足音でさえもきしみ、1 階に響くほどでした。一度、トイレとシャワーが使えなくなったことがありましたが、基本的に清潔だったと思います。キッチンがなぜか居

心地が良く、勉強も雑談も多くの時間をキッチンで過ごしました。寮と校舎、食堂ともに徒歩 3 分以内にあり学生にとってとても住みやすい環境でした。

⑧ 長期休暇の過ごし方

最初の休暇が Fall Break で、留学生の友達と 4 人でカナダに行きました。ナイアガラの滝を見に行き、トロントを観光しました。すごい迫力のナイアガラと久しぶりの大都会を楽しみました。Thanksgiving は、Conversation Partner が家に招待してくれ、1 週間弱お世話になりました。彼女はメキシコ人の家庭の子なので、メキシコ流でお祝いしました。スパイシーな料理が多くて最初は苦手でしたが、だんだん辛さにも慣れお母さんの手料理がとても美味しく感じました。冬休みが約 1 か月間あり、Mary Baldwin 大学で仲良くなったメキシコ国境に住むテキサス出身の友達の地元を約 2 週間訪れました。ブラウンズビルという街で国境ということもあってかヴァージニアとは違い、スペイン語が多く使われていたり、メキシコ人の方も多く見かけたりと新しい街だなという印象を受けました。一度、メキシコにも車で連れて行ってくれました。国境を越えるだけで、雰囲気が急激に変わり違う国にいるという実感がすぐに湧きました。また、クリスマスは、その友達の家に招待していただき、メキシコ文化盛りだくさんのクリスマスを過ごしました。『タマレ』というイベントの時に食べるメキシコ料理をいただき、今まで食べたことのない料理だったのでとても新鮮で美味しかったです。Spring Break も、アメリカの友達の家にお世話になりました。それまでの課題が大変だったので、解放されゆっくりと過ごせました。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

11 月にボストンキャリアフォーラムに行きました。就職活動の雰囲気を初めて味わい圧倒されました。3 月に情報解禁され、より現実的になりプレエントリーなどをしていましたが、いまいち仕事をするイメージが湧かなくて希望業種が定まらず、調べるだけでエントリーはしなかったです。

Ⅱ. 留学の感想

① 楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中、様々なイベントがあったり旅行にもたくさん行ったりしましたが、振り返ると一番楽しかったことは日々の留学生たちとの学校生活だったと思います。Fall Semester は全員で 9 人、Spring Semester は 10 人でした。何をするにも一緒にワイワイと過ごした時間がかけがえのない思い出です。誰かと会えば自然とみんなが集まり、話が止まらず盛り上がりすぎて RA(Resident Assistant)によく注意されました。特に、毎月のようにくるサプライズ誕生日パーティーがとても思い出に残っています。みんなそれぞれ課題などで忙しい中、誰かのために一生懸命、準備する関係が素晴らしいと思いました。みんなといる

と、寂しさも感じることなく穏やかで明るい毎日を送れました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

つらかったことは、ある日ルームメイトが夜中にてんかんを起こし、数日間恐怖で夜眠りにくくなったことです。その後の移動先の新しいルームメイトとも始めはうまく溶け込めず、部屋に帰るのが辛くなった時期がありました。しばらくすると自分の気持ち次第だと感じ、ルームメイトを受け止めることができ楽になりました。最も苦労したことは、Final のペーパーです。何について調べ書くかなど構成を考えるのにとっても時間がかかり、なかなか書き始められなくて時間だけが過ぎていく日々がしんどかったです。1 文書くのになんにも時間がかかるペーパーは初めてでした。でも、苦しんでいるのは自分だけではなく、周りの友達も一緒に頑張っていたので最後までやりきることができました。夜遅くまで友達とキッチンで勉強したり、やり終えた時にみんなで開放感に溢れて喜んだり、とてもいい思い出になりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

現地の学生は授業に積極的に発言して参加したり、量の多い課題を集中してこなしたり、オンとオフの切り替えが上手だなと感じました。また、アメリカの友達がいる前で、日本の友達と日本語で話していたら失礼だと言われた時、あまり理解できず私の勝手だと思ってしまいました。他のアメリカの友達が、アメリカでは何か秘密を話していると疑う傾向にあると教えてくれました。周りへの配慮や、広い心を持つよう心がけようと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、基本的に建物が可愛いです。あと、田舎なので自然が多く空気がとても澄んでいて空が綺麗です。毎日生活するので、これらは私にとって結構重要でした。また、日本語の授業があるのもあって日本に興味を持ってくれるアメリカの学生が多いということと、留学生に対するサポートがとても整っていたので、生活のし辛さや人とのコミュニティを形成することにあまり困りませんでした。Conversation Partner や Friendship Family という制度のおかげで、アメリカの家庭での生活も体験させていただくことができました。悪かった点は、電車は 2 日に一度しかなく、車がないと自由に行きたい所に行けないことです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは必須だと思います。個人的には、小さくて持ち運びのしやすいパソコンを持って行って正解だったなと思っています。あと、小さいサイズの洗濯バサミが付いて

いるハンガーは、手洗いしたものを部屋で干す時に役立つので毎日使っていました。日本で有名なお菓子などを、アメリカの学生にあげると日本語が書いているだけで喜んでくれたり、現地の家庭でお世話になることもあると思うので、多少の日本のお土産は持って行くのがいいと思います。私が持参しなくて困ったものとして、咳止めの薬や、風邪薬は念のために幅広く持って行った方がいいと思います。現地の薬を買うよりも、日本語で説明書を読めるので安心して使えます。

③ 語学力に向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力は自分でも実感できるほど、のびているなと感じます。一番の語学力においての変化は、英語を話す時にためらいがなくなったことだと思います。留学生同士でもアメリカの学生も、一生懸命伝えようとする姿勢があれば、聞く側も一生懸命聞いてくれました。また留学後の変化という意味では、いろいろな意味で視野が広がりました。アメリカに限らないと思いますが、様々なバックグラウンドを持つ人々がいる地域で生活していると、日本では小さな違いに敏感になりすぎていた自分に気づきました。もっと自分に自信を持っていいと、教授に言われたのがとても印象に残っていて感謝しています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は振り返ると様々な刺激のある日々だったなと思えます。異文化の環境に慣れるのが大変だったり、勉強が辛かったり、負荷も日本で生活するよりも多くなると思いますが、その分、現地でしか出会えない友達ができたり、日本とは違う授業体形で学べたり、日本からは行くのが難しいところにたくさん旅をすることができたり、楽しさや喜びも多いです。全てにおいて倍ぐらいで感じたり学んだりすることができる、大切な期間だと思いますので、1日1日を思いっきり過ごしてほしいと思います。あと、私はできなかったことですが、できるだけ感じたこと学んだことを日記に細かく記しておくのがいいと思います。写真だけで残す思い出よりも、鮮明な情報がずっと残ると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ就職活動も終わっていませんが、この留学経験を活かせるような仕事に就きたいと思っています。語学力という意味だけでなく、留学を通して得た対応力や人との接し方を仕事でも役立てたいです。アメリカで行われた大統領選挙を現地で見守ることができたことから、より世界の国々の関係性が良好になることを強く願うようになりました。将来はどんな形であれ、そういった国際情勢の安定に貢献できるような存在になれたらと思っています。

V. 写真



クリスマスの前に、留学生のアドバイザーのリサさんが自宅に招待してくれました。お菓子の家を作ったりツリーに飾りつけをしたり、とても楽しかったです。



ブラウンズビルに住む友達の家で誕生日パーティーを開いてくれた時の写真です。サプライズでとてもびっくりしたのと、大好きな友達と暖かい家族に祝ってもらい幸せな時間でした。

2016 年度（秋スタート・1 年）
Mary Baldwin University



Signature Ball という、夜のダイニングホールで行われたパーティーです。みんないつもよりも綺麗にしてたくさん踊り、いつもと違う夜を楽しみました。このイベントの準備も参加したので、思い出深いです。



2016 年度（秋スタート・1 年）
Mary Baldwin University

多くの時間を過ごした、寮の中のキッチンです。辛かった Final の課題を終えみんな舞い上がっている時の写真です。みんなの共有スペースですが、特にテスト期間中はほとんど私たち留学生が占領していました。



大好きな Mary Baldwin 大学の綺麗なキャンパスです。晴れの日が多く、空が澄んでいて気持ちのよい日々でした。